

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

会社は誰のものか、株主、創業者は4番目 清水 信次 (ライフコーポレーション会長兼CEO)

1. 首都圏、関西圏に約280店舗を展開し、年間7000億円を売り上げる日本最大の食品スーパー、ライフ。緻密なマーケティングと高い経営効率を武器に、年々成長を続けている。同社は4月、新型コロナウイルス対応への謝意を込め、全従業員約4万人に「緊急特別感謝金」を支給した。賞与で従業員に利益を還元したことはあるが、感謝金を配るのは初めて。正社員、パート・アルバイトの全職種が対象で、感謝金の総額は3億円という。
2. 施策が感謝金だけではなかったことも従業員の気持ちを盛り上げた。2月中旬には、感染リスク低減のため、試食の中止および食材のばら売り縮小に着手。3月上旬には、従業員の健康チェック、マスク着用の義務化、飲食スペースの使用制限なども決めた。さらに「従業員ファースト」の施策として店休日が設定され、その日を「特別有給休暇扱い」にした。事態の長期化を見据えた「従業員の体と心をリフレッシュする」のが目的だった。
3. 根底にあるのは、創業者・清水信次会長兼CEOの経営観です。「会社は誰のものか議論になることがあります。米国流の会社は株主のものということではないと思います。第1にお客様、第2が従業員、第3が取引先、株主や創業者は4番目です。お客様と従業員、取引先の3つの循環がうまく回って、それが利益となりおこぼれが配当として株主や創業者に落ちてくる」。

(参考:「日経ビジネス」2020年7月6日号)

経営者のための理念・哲学

人間を磨く

1. 仕えてその道を能くする、これを達という。ある先哲の言葉である。一つのこと仕えてその道の熟達者になる。そういう人を達人というのだ、ということである。その道の達人になる人は皆、自分を磨き続けた人である。自分を磨かずして達人になり得ない。という。それは特別な人、自分とは関係ない、と思う人もいるかも知れない。そうだろうか。
2. 人は皆、自分の人生の経営者である。自分の人生の経営を他の人に代わってもらうことはできない。自分の人生は自分で経営するしかない。即ち、人は皆、自分の人生のオーナー経営者なのだ。では、どうすれば自分を磨けるのか。その第一は古今の師に学ぶことである。安岡正篤師はいう。「人の喩るところはその習うところによる。習うところはその志すところによる。義に志すか利に志すかによって、ついに君子となり、小人となる」。

(参考:「致知」:2020年9月号)

経営者のための危機管理

「いずれ」の事業をきちんと整理する

杉田 浩章 (ボストン・コンサルティング・グループ 日本共同代表)

1. いい経営とそうじゃない経営は今、くっきり分かれつつあります。その理由は明確。いい企業とは「リーマンショックの後にやるべきことをしっかりやった企業」なのです。前回の危機時に、「こういうことがまた起ったら、わが社はどうなってしまうのか」を考え抜いた。その上で弱い事業を整理して、事業ポートフォリオを変えていたのです。だからコロナに直面しても、結構持ちこたえている。
2. 企業の中には往々にして、いずれはやめねばならない事業があるものです。ところがこういう弱い事業は、今回のように需要が落ちる局面では、一気に赤字に転落する。いい企業はこういう「いずれ」の事業をきちんと整理し、新しい事業に投資をしてきた。だからコロナで需要が急減した後でもしっかりしているのです。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2020年7月18日号)

古典に学ぶ

官から実業界へ

(解説) 余は明治6年思うところありて官を辞して以来、商工業というものが自己の天職である。もしいかよりの変転が起って来ても、政治界には断じてふたたび携わらぬと決心した。元来政治と実業とは互いに交渉錯綜せるものであるから、達識非凡の人であったら、この二途に立ってその中間を巧妙に歩めばすこぶる面白いのであるが、余は初めから政治界を断念し、実業界に身を投じた。

(参考: 洪沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)